

東洋陶磁学会 2017年(平成29年)度 事業報告

総会

日 時:平成29年6月10日(土)午後1時～

会 場:学習院大学北2号館(文学部研究棟)10階大会議室

特別報告:『世界の陶磁史研究動向』

「近年発掘された明清官窯瓷器—景德鎮御窯廠と故宮博物院内の出土資料を中心に—」:新井崇之

「韓国全南高興郡における粉引(白化粧磁)シンポジウム」:吉良文男

大会(参加者:95名)

日 時:平成29年10月21日(土)・22日(日)

会 場:多治見市産業文化センター

テーマ:「自然科学系の東洋陶磁研究報告」

日 程

10月21日(土)午後1時～

・東洋陶磁学会常任委員長挨拶 大橋 康二

・「古陶磁研究と文化財保存科学」 二宮 修治

・研究発表

「瀬戸の土、美濃の土、あれこれ」 須藤 定久

「白天目、瀬戸黒の分析」 太田敏孝・青山双溪

「愛知県陶磁美術館の復元古窯焼成の活動報告」 大西 遼

「考古地磁気と窯跡の電磁気探査」 酒井英男・菅頭明日香

10月22日(日)午前10時～

・研究発表

「シンクロトン光を利用した科学分析」 東 博純・竹田美和

「シンクロトン光を使った呉須顔料の分析と比較」 太田公典・佐藤文子・梅本孝征

「陶磁器における熱ルミネッセンス法の信頼性」 青木智史・出川哲朗

「中国産陶磁器の産地推定に関する研究—福建陶磁を中心に—

徳留大輔・會澤純雄・桑静・平原英俊・三浦謙一・羊澤林・栗建安

「初期イスラーム時代におけるエジプト施釉陶器の展開—保存科学的視点からの検討—

村上夏希・二宮修治・桐野文良・長谷川奏

*「東洋陶磁の基本用語についての問題提起」

井上喜久男・片山まび・金沢陽・森達也

10月23日(月)

見学会:台風のため中止

研究会

平成29年6月3日(土)午後1:30～東京藝術大学 中央棟2階 第5講義室(21名)

村上夏希(東京藝術大学)、長谷川 奏(早稲田大学)

「保存科学的手法による材質調査—初期イスラーム時代におけるエジプト陶器の技術変遷—」

* 研究発表終了後、早稲田大学のご厚意によりフスタート遺跡出土イスラーム陶片の観察

6月18日(日)午後12時30分～5時30分 沖縄県立芸術大学当蔵キャンパス(40名)

金 立言(「佳趣雅集」中国陶磁器学会)

「官様から見る明代 15 世紀“空白期”の景德鎮瓷器」

新垣 力(沖縄県立埋蔵文化財センター)

「16～17 世紀の琉球における瓦質土器及び陶器生産の様相と背景」

加藤志帆(沖縄県立芸術大学美術工芸学部)

「マイヨリカ陶器の図像解釈研究—「愛の陶器」を中心に—」

倉成多郎(那覇市歴史博物館)

「明治期沖縄県の移・輸入陶磁器の変遷について」

平成30年1月27日(土)午後1:00～青山学院大学2号館232教室(12名)

今田陽子(陶芸作家)

「イギリスと日本—イギリス留学を終えて—」

高橋奈己(陶芸作家)

「鑄込みという技法と私の制作、作品」

3月10日(土)午前10時～午後5時 青山学院大学2号館232教室(26名)

江戸遺跡と窯資料による肥前色絵磁器の躍進事情の意匠・技術的解明と罹災文化財の復元

水本和美(東京藝術大学)

「17世紀の肥前磁器の意匠と技術の躍進」

二宮修治(東京学芸大学)

「有田磁器の原料形成に関わる地球科学的研究」

杉谷香代子(石洞美術館)「祥瑞について」

ディスカッション・コメント

*平成27-29年度科研費(基盤C)「江戸遺跡と窯資料による肥前色絵磁器の躍進事情の意匠・技術的解明と罹災文化財の復元」の成果報告会とかねての開催

3月25日(日)午後1:30～東京藝術大学 中央棟2階 第5講義室(22名)

尾野善裕(奈良文化財研究所)・池 世梨(京畿陶磁博物館)

「建仁寺山内に伝来した朝鮮陶磁と以酌庵輪番僧」

後援事業

平成30年3月17日(土)

第11回李秉昌博士記念公開講座「元と高麗」

会場:大阪弁護士会館 2階会議室(大阪市北区西天満 1-12-5)

主催:大阪市立東洋陶磁美術館・(公財)大阪市博物館協会

学会誌

第47号:平成30年3月31日発行

「日本磁器の創始と発展—江戸前期を中心に—」(第44回大会発表を中心に)

会報

第87号:平成29年7月25日発行(総会編)

第88号:平成29年11月30日発行(考古編)

常任委員会

第1回:平成29年4月16日 於東京藝術大学

第2回:平成29年6月10日 於学習院大学

第3回:平成29年10月21日 於多治見市産業文化センター

第4回:平成30年3月24日 於東京藝術大学

編集委員会 メールで随時開催

学会改革 ホームページ拡充

その他 学会誌バックナンバー配布、会員拡充